

Community Medicine

— 地域医療の架け橋 —

2020年夏号

第64号

つばさ

地域の皆さまに信頼される病院として
安全で質の高い医療を提供します。

独立行政法人地域医療機能推進機構
神戸中央病院
〒651-1145
神戸市北区惣山町2丁目1-1
TEL 078-594-2211
FAX 078-594-2244
<http://kobe.jcho.go.jp/>



腎臓内科

当院腎臓内科は令和2年4月からは腎・透析の専門医3名と専攻医1名で診療にあたっています。腎疾患全般（腎炎、ネフローゼ症候群、水・電解質異常、保存期腎不全、血液・腹膜透析、維持透析合併症）にわたって対応しています。

腎疾患の可能性のある患者さまに対しては、適応があれば入院して腎生検を行います。IgA腎症に対する扁桃パルス療法やネフローゼ症候群に対するステロイドを含めた免疫抑制療法なども積極的に行い治療成績をあげております。

腎機能が既に悪くなり改善が見込めない患者さまに対しては、透析導入を少しでも遅らせるために、栄養指導や内服薬の調整に加え、1週間の教育入院を行っています。週末だけ腎臓食と教育指導だけの入院プランもあります。このようなCKDの患者さまに関しては特に、兵庫県医師会、CKD疾患協議会でのCKDパスを用いて、かかりつけ医の先生との密接な病診連携に力を入れています。循環器疾患などの合併症を見つけて治療していくことも心がけております。

腎機能が完全に悪くなってしまった患者さまに対しては、腎代替療法（腹膜透析、血液透析、腎移植）について十分説明をさせていただき、その患者さまに合った最適な治療を提供できるよう努めております。当院ではいずれの透析にも対応しており、導入から維持透析まで一貫して当院で治療を行います。必要な患者さまには腎移植の登録や手術病院への紹介もしています。血液透析のシャント作製やインターベンション治療（VAIVT）も当院で行っておりますし、腹膜透析のカテーテル関連手術も腎臓内科で行うと共に、トラブルには緊急に対応しております。

透析患者の脳卒中、狭心症や足の動脈疾患、感染症などの合併症全般にも病院全体で協力して治療しています。また透析以外の血液浄化療法（血漿交換、白血球除去）なども施行可能です。

スタッフ一同さらにレベルアップできるよう日々精進して参りますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

西原 孝明

大郷皮膚科クリニック

〒651-1245 神戸市北区谷上東町13-3
 TEL 078-586-1233
 診療科目：皮膚科・アレルギー科



大郷 典子 先生

| 診療時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 祝 |
|-------------|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9:00~12:00 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | × | × |
| 16:00~19:00 | ● | ● | ● | × | ● | × | × | × |

臨時休診あり(完全予約制、お電話でお申し込み下さい)



2009年3月に永らく勤務しておりました神戸市立医療センター中央市民病院を定年退職いたしまして、同年5月から開業いたしました。10年ひと昔といわれますが、いまだに勤務医気質が抜けずにいます。勤務医時代から、神鉄の車窓からみえる自然いっぱいの山田の里にあこがれており、ここで仕事ができることに大満足しています。皮膚疾患全般を診せていただいています。皮膚は内臓の鏡でもあります。時々内臓の病変が見つかり、神戸中央病院の先生方には大変お世話になっています。開業医の役割を常々考えるのですが、患者様にとっての地域で完結できる医療を提供する、出来ない疾患は早期にスタッフや設備の整った病院へ紹介する、その見極めと、地域の先生方や医療スタッフの方々との連携が重要かと心しています。往診もさせていただいておりますが、地域の訪問看護ステーションのスタッフの方々の活躍には感謝しております。今後も患者様の側に立った医療に努めていきたいと考えています。よろしくお願い申し上げます。

着任のご挨拶



看護部長 柳崎 朱美

令和2年4月1日付けで看護部長に着任させていただきました。新型コロナウイルス感染症による非常事態の中でしたが、地域の皆様をはじめ病院職員にご協力いただき、新年度を迎えることができました。この場をおかりし感謝申し上げます。

JCHO神戸中央病院は同機構の中でも特に複数の施設や機能を有しており、看護部では地域完結型の切れ目のない看護ケアの提供に取り組んでいます。専門性の高い看護師の人材育成にも歴代の看護部長が尽力され、6分野の認定看護師と家族支援専門看護師が活動しています。「ここを込めて地域のニーズに合った質の高い看護サービスを目指します」という理念のもとJCHO神戸中央病院の看護の人財が地域の医療・介護に貢献できるよう努力してまいります。

地域の皆様、職員の皆様どうぞよろしくお願いいたします。



事務部長 中野 良文

4月1日付、島根県の玉造病院から神戸中央病院に事務部長として着任いたしました。それ以前は滋賀病院で勤務しておりました。これまでの経験を活かしつつ、伝統ある神戸中央病院の更なる発展に寄与したいと思っております。

2025、2040年問題で地域医療構想において日本の医療体制を再構築するという国家プロジェクトが、国主導で進められてきましたが、今年世界を襲った新型コロナウイルスパンデミック影響から根底から再構想しなければならない事態となっています。この様な時こそ基本に立ち返り、当院の使命でもある地域医療を支えるべく医療・介護・予防をシームレスに提供していく事が肝要だと思います。

職員が向かうべき方向を共通認識しONE TEAMとなる様、努めていきますので皆様方のご協力よろしくお願いいたします。

新型コロナウイルスに対する当院の取り組みについて

感染管理室 大東 芳子

神戸市で新型コロナウイルス感染症が初めて確認されたのは3月3日でした。全国的に感染が拡大する中、地域の皆様も大変ご不安な時期を過ごされたことと思います。

当院におきましては、院内感染の防止を第一に取り組みました。一例としましては、職員の手指衛生の徹底やサージカルマスクの着用、ポスター掲示によるご来院者様への注意喚起などです。ご来院の皆様方には様々なご不便をおかけいたしました。おかげさまで院内感染の発生はなく、第一波を越えることができました。ご協力ありがとうございました。

当院では発熱などの症状があり、新型コロナウイルス感染症の可能性が否定できない患者さんの場合、一般外来から離れた場所で診察を行うよう体制を整えました。その様な診察の場合、テレビ等でもよく見かけるような個人防護具を着用した姿で診療にあたります。さらに、職員は診療に必要な研修を実施し、様々な状況に対応できるよう体制を整えました。

第2波がどのように来るのか予測は難しいと思われま。しかし、職員が一丸となって新型コロナウイルス感染症対策に取り組み、地域の皆様の健康と安全安心を万全の体制でお守りする所存です。



公費負担医療等の有効期間についてのお知らせ

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ公費負担医療等の取扱が以下のとおりとなりました。

| 公費負担医療の種類 | 現在お持ちの受給者証の有効期限 | 取扱について |
|--------------------|------------------------|--|
| 戦傷病者特別援護法に基づく療養券 | 令和2年3月1日～ 令和3年2月28日 | 有効期間を1年延長 |
| 毒ガス障害者救済対策事業 | 令和2年3月1日～ 令和3年2月28日 | 有効期間を1年延長 |
| 被爆体験者精神影響等調査研究事業 | 令和2年3月1日～ 令和3年2月28日 | 有効期間を1年延長 |
| 肝炎治療特別促進事業 | 令和2年3月1日～ 令和3年2月28日 | 有効期間を1年延長 |
| 肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業 | 令和2年3月1日～ 令和3年2月28日 | 有効期間を1年延長 |
| 先天性血液凝固因子障害等治療研究事業 | 令和2年3月1日～ 令和3年2月28日 | 有効期間を1年延長 |
| 在宅人工呼吸器使用患者支援事業 | 令和2年3月1日～ 令和3年2月28日 | 有効期間を1年延長 |
| 特定疾患治療研究事業 | 令和2年3月1日～ 令和3年2月28日 | 有効期間を1年延長 ※有効期間が6月のものについては、延長期間も6月とする |

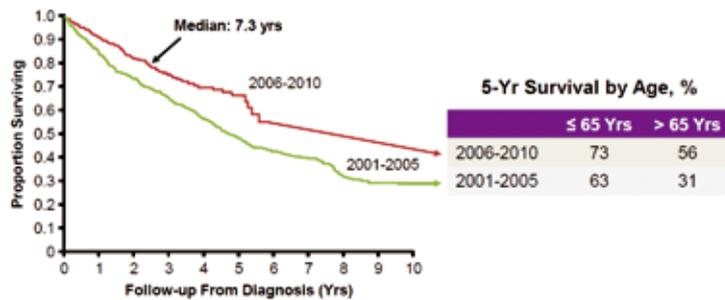
※受給者証についてはすでにお持ちのものをそのまま有効期限を1年延長して使用することができます。
詳細については兵庫県健康福祉部健康局疾病対策課（078-341-7711）へお問合せください。



多発性骨髄腫の新規治療薬について

多発性骨髄腫 (multiple myeloma; MM) は、抗体を産生する形質細胞 (Bリンパ球の最終分化段階の細胞) が癌化した血液がんであり、60-80歳代に好発し、日本での年間発症率は10万に約5人とされています。癌化した形質細胞が産生するM蛋白 (異常免疫グロブリン) により、骨破壊による骨折や高カルシウム血症、腎障害、貧血、免疫低下による易感染性など多彩な臨床症状を呈する全身性疾患です。MMの治療は、数十年の間進歩がなく、MP療法やVAD療法などの抗癌剤治療が長い間行われていましたが、これら治療法による予後は2-3年程度と不十分なものであり、MMはいわゆる「不治の病」でした。しかしながら、近年様々な新規治療薬が続々開発されており、MMの治療は大きく変化しています。

具体的にはボルテゾミブやカルフィルゾミブ、イキサゾミブなどのプロテアソーム阻害薬、レナリドミドやポマリドミドなどの免疫調節薬 (IMiDs)、さらにダラツズマブやエロツズマブなどの抗体薬が導入されるようになり、治療法の選択は格段に広がりました。これらの薬剤は初発症例だけでなく、再発難治症例においても有用であり、単剤あるいは併用することで、高い治療効果と生存期間の延長が得られています (下図)。



Kumar SK, et al. ASH 2012, Abstract 3972.

これら新規薬剤の功績により長期生存が可能となり、今ではMMは慢性疾患とみなされるようになりました。そうであっても治癒しない疾患であることには変わりなく、新規薬剤を組み合わせることで、病勢をコントロールすることで、良好な生活の質 quality of life (QOL) を維持し、長期生存を目指すことを治療目標とします。

当院でも、MM患者様に対して、これらの新規薬剤を用いた外来化学療法を積極的に施行しており、その件数は年々増加しています。治療レジメンの選択に際しては、疾患要因 (染色体異常、腫瘍量、進行速度、髄外病変など) に加え、患者要因 (年齢、全身状態、併存疾患、フレイル、社会的支援の必要性など) を十分に考慮した上で、最適なレジメンを選択し、患者様・そして御家族にも病状・治療内容に関する説明を行った上で、安心して治療を受けて頂けるよう日々診療にあたっております。

新任医師紹介



さかもと まなと
阪本 真人 : 脳神経外科

7月より京都府立医科大学から異動となりました。神戸市北区の住民の皆様の医療に貢献できるよう、誠心誠意尽力致します。



おおはし ゆたか
大橋 雄高 : 歯科口腔外科

7月から口腔外科で勤務させていただきます。精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願いたします。

退任医師のお知らせ

歯科口腔外科 : 棚倉 万紀子
消化器内科 : 森主 達夫